

看護学部における新入生の感染予防のための初期教育の検討(その1)

吉村 尚美・富澤 栄子・棧敷久美子・久保 幸子・栗本佐知子
長尾多美子・横関恵美子・中澤 京子・橋本 茂

Discussion on Initial Education on the Prevention of Infection
for New Students of the School of Nursing (No. 1)

Naomi YOSHIMURA, Eiko TOMIZAWA, Kumiko SAJIKI, Sachiko KUBO, Sachiko KURIMOTO,
Tamiko NAGAO, Emiko YOKOZEKI, Kyoko NAKAZAWA and Shigeru HASHIMOTO

ABSTRACT

Purpose: The purpose of this research was to clarify the actual state of infection prevention behaviors of the students of academic year 2014/2015 of the School of Nursing at "A" University, and to discuss the initial education on the prevention of infection.

Method: An anonymous self-descriptive questionnaire survey was conducted with 88 students of academic year 2014 and 109 students of academic year 2015. Their status of vaccinations for one year after their entrance was analyzed. The contents of the survey were attributes, living environment, the recognition of the status of vaccination, the knowledge of infectious disease (10 items to question the knowledge based upon the infectious disease file prepared in the School of Nursing of "A" University) and their understanding of vaccinations (13 item 4 case law concerning the understanding of vaccination). Due to incomplete data in some of the questionnaires, the data from only 164 of the 197 research subjects were usable for the analysis.

Results: As for the status of vaccinations for one year after their entrance, the rates of three kinds of vaccinations of rubella, measles and hepatitis B of the students of 2015 academic year rose more than those of the students of 2014 academic year. A strong positive correlation was observed between "antibody test is expensive" and "vaccination is expensive" ($r=.701, p<.01$). There was a little correlation between "vaccination should be conducted in a planned way" and "prevention of own health damage" ($r=.391, p<.01$) and there was a strong correlation between "vaccination should be conducted in a planned way" and "prevention of others health damage" ($r=.533, p<.01$). The students who are aware that "vaccination should be conducted in a planned way" account for over 90% of the same respondents as "prevention of own health damage" and "prevention of infection to others," which have correlation with each other; therefore, it is considered that "prevention of own health damage" and "prevention of infection to others" are important as the motivation for clinical visits. It was suggested that the request from the facility is considered reasonable, and the nurses understand the necessity because it is connected to proactive preventive behavior.

KEYWORDS: infection preventive behavior, initial education, vaccination

I. 背景

看護教育には、医療保健福祉施設などで行う臨地実習が不可欠であり、学生が実習先で関わる対象者の健康状態も様々である。学生を感染症から守ると同時に、学生自身が感染源とならないように感染症に対する知識の獲得とともに予防接種による抗体価の獲得が重要である。小口¹⁾は、学生が予防接種を

行うためには、知識・接種への動機づけなどの必要性を示唆している。さらに、医療関連感染予防の観点から医療保健福祉施設で勤務するスタッフの予防接種が推奨、実施され、これらの施設で臨地実習を行う看護学生もまた医療従事者と同様に抗体検査および予防接種が求められている。

A 大学看護学部においても平成20年度より感染症ファイルを作成配布し、麻疹・風疹・水痘・流行性

耳下腺炎・百日咳およびB型肝炎の抗体検査および予防接種を推奨してきた。しかし、予防接種に対する知識や認識が低く、主体的に予防接種を受けず、臨地実習に向けて感染症予防対策が十分であるとは言い難い状況があった。平成26年度入学生には、合格者に説明文を送付し、入学前に個別での抗体検査を推奨した。医療機関で発行される検査結果の提出を求め、その検査結果をもとに、結果の解釈と陰性者の予防接種の推奨を行った。その際に、大学看護学部が独自に作成した感染症ファイル（注意すべき感染症と予防接種の必要性を記載した冊子）を使用した。しかし、入学後に抗体検査を行う学生もあり、予防接種の足並みがそろわない状況となっていた。その後も感染予防のための予防接種啓発が機能せず、不抗体獲得が不十分な学生もいることが問題となり、個別での啓発教育を行うしかない状況であった。

そこで、平成27年度より人々の健康を護る医療職を目指す看護学生が感染症のリスクを正しく認識し、主体的に感染症予防行動がとれるよう新たな感染症予防教育プログラムを開始した（図1）。その主な内容は、保護者・入学生に向けて①入学前に集団の抗体検査の案内を送付②抗体検査と予防接種の説明③抗体検査後の結果説明と集団感染症予防教育④予防接種計画の作成と学生の主体的感染症予防行動の支援であった。

II. 目的

本研究では、A大学看護学部の、平成26年度入学生（以下26年度生）と平成27年度（以下27年度生）入学生の感染症予防行動の実態を明らかにし、感染症予防の初期教育について検討することを目的とする。

	H26年度		H27年度	
入学前	入学前に個別抗体検査依頼		入学前に集団抗体検査案内	
抗体検査時期	入学前（個別）		入学時保護者と共に学生に説明後（集団）	
抗体検査結果	個々の医療機関で検査方法や結果表記にばらつきあり		同一検査方法・結果表記	
感染対策と予防接種教育	個別の結果票を用いて集団での結果説明（結果票不統一のため説明が困難で、学生も理解しにくい）		同一検査結果票を用い、集団で検査結果説明（統一した説明が容易）	
予防接種の受け方の説明	抗体陰性者事例をもとに、予防接種の受け方説明（予防接種フローチャート使用し、医師と相談し計画的な実施説明）		抗体陰性者事例をもとに、予防接種の受け方説明（予防接種フローチャート使用）後、自己記入式予防接種計画書の配布と作成支援（集団）	
結果説明会と定期的予防接種の啓発方法	4月	集団説明会后個別指導	4月	集団対面指導
				検査結果説明会時集団対面指導
			5月	B型肝炎予防接種勧奨一斉メール
			6月	B型肝炎予防接種勧奨一斉メール
	8月	夏季休暇前に接種勧奨個別メール配信	8月	4種予防接種勧奨メール
	9月	予防接種報告推進一斉メール	9月	4種予防接種報告と集団対面指導
	10月	インフルエンザ予防接種及び4種予防接種勧奨メール	10月	インフルエンザ予防接種勧奨メール
	12月	インフルエンザ及びB型肝炎、4種の未実施者に個別メール	12月	B型肝炎予防接種勧奨一斉メール
	1月	インフルエンザ予防接種未実施者に個別メール	1月	インフルエンザ予防接種未実施者に個別メール
	3月	B型肝炎及び4種予防接種未実施者に勧奨個別メール	3月	B型肝炎及び4種予防接種未実施者に勧奨一斉メール

※4種予防接種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス）

図1 H26年度とH27年度の感染症対策と初期教育プログラム

用語の定義

本研究の感染症予防行動とは、スタンダードプリコーションを含む感染症予防行動及び自らの抗体価を把握し、計画的に予防接種を受ける行動とする。

Ⅲ. 方法

1. 対象者

A 大学看護学科平成26年度生と平成27年度生を対象とした。

2. 調査期間

平成27年5月

3. 調査方法

1) 自記式質問紙調査

無記名の自記式質問紙調査用紙を作成し、対象者全員に調査の目的・主旨・方法を説明し、調査への協力を示した者に配布した。記入した調査票は、調査票回収箱を設置し回収した。

2) 予防接種報告書

対象者の既に回収した予防接種報告書から接種状況の分析を行った。

4. 調査内容

1) 属性

個人属性は、性別、学年、同居家族の有無、予防接種の計画立案の有無とした。

2) 予防接種取り組み状況の認識

麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳およびB型肝炎の予防接種の取り組み状況の認識を「1. 予防接種を1回接種し陽性になった」「2. 予防接種を2回接種した」「3. 予防接種を1回接種した」「4. 予防接種を接種していない」「5. 分からない」の5件法で解答を求めた。

3) 感染症の知識

看護学部で作成した「感染症マニュアル」を基にスタンダードプリコーションを含む感染症に関する知識を問う10題の質問項目を作成し、「はい」「いいえ」の2件法で解答を求めた。

4) 予防接種の意識

玉井ら²⁾の研究より予防接種の意識に関する13項目を「全くそう思う」～「全くそう思わない」4件法で回答を求めた。

5) 予防接種状況

予防接種報告書より入学から1年間の接種状況を「対象外(入学当初から抗体価がある)」「予防接種ができていない」「予防接種ができていない」に分類し、予防接種状況をデータ化した。

5. 分析方法

分析は、各変数の記述統計量を算出し、予防接種状況の学年間比較を行いカイ二乗検定を用い分析した。感染症の知識、意識については、学年間の平均の差の検定を行った。知識と意識との関連をSpearmanの相関係数を算出し、検討した。解析には、SPSS Statistics Ver 23を用いた。

6. 倫理的配慮

研究の目的を説明し、調査への参加の自由であること、無記名で行い、プライバシーの保護を行い、参加の有無は成績等に影響しないことを口頭と文書で説明した。本研究は、所属大学倫理審査専門委員会の承認を得て実施した。

Ⅳ. 結果

本調査は、197名に配布し、欠損値を除く164名(有効回答率83.2%)を解析対象とした。

1. 概要

1) 属性

性別は、女性が147名(89.6%)と多く、男性は17名(10.4%)であった。年齢の平均(±SD)は19.79±0.79、学年は、27年度生79名(48.2%)、26年度生(51.8%)であった。

生活環境は、家族と同居している学生は85名(51.8%)、同居していない学生は79名(48.2%)であった。

予防接種の計画は、計画を立てた学生141名(86.0%)と多く、計画を立てなかった学生23名

表1 概要

n = 164

		人数 (%)	
性別	男性	17	(10.4)
	女性	147	(89.6)
		平均 (±SD)	19.79±0.79
属性	年齢	19歳	66 (40.2)
		20歳	72 (43.9)
		21歳	22 (13.4)
		22歳	3 (1.8)
		23歳	1 (0.6)
学年	2年生	79 (48.2)	
	3年生	85 (51.8)	
生活環境	同居	同居あり	85 (51.8)
		同居なし	79 (48.2)
予防接種計画	予防接種計画	予防接種の計画たてた	141 (86.0)
		予防接種の計画を立てていない	23 (14.0)
予防接種を受けた認識	予防接種を受けた認識合計	平均 (±SD)	16.82±5.12
		平均 (±SD)	7.54±1.60
感染症知識	感染症知識得点	3項目正答	1 (0.6)
		4項目正答	5 (3.0)
		5項目正答	14 (8.5)
		6項目正答	24 (14.6)
		7項目正答	27 (16.5)
		8項目正答	42 (25.6)
		9項目正答	35 (21.3)
10項目正答	16 (9.8)		

(14.0%)であった。

2) 予防接種の取り組み状況の認識

B型肝炎・麻疹・風疹・水痘・ムンプスの予防接種の取り組み状況の認識を「1. ワクチンを1回接種し陽性になった」から「5. 分からない」の5段階を5点から1点と点数化し合計を算出した。得点の平均 (±SD) は、16.82±5.12であった。

3) 感染症に関する知識

感染症に関する知識は、10項目すべて正答者は16名 (9.8%)、5項目以上正答者は158名 (96.3%)、3,4項目正答者は6名 (3.6%)であった。正答数の平均 (±SD) は7.54±1.60項目であった。(表1)

4) 予防接種に関する意識分布

予防接種に関する意識は、「抗体検査費用が高い」は、全くそう思う99名 (60.4%)、ある程度そう思う54名 (32.9%)であった。「抗体検査費用が高い」と意識する学生が93.3%を占めていた。「予防接種費用が高い」に関しては、全くそう思う103名 (62.8%)ある程度そう思う55名 (33.5%)と「予防接種費用が高い」と意識する学生が96.3%を占めていた。「受診に時間がかかる」に関しては、全くそう思う33名 (20.1%)ある程度そう思う40名 (24.4%)と、あまりそう思わない84名 (51.2%)全くそう思わない7名 (4.3%)と、「受診に時間がかかる」と意識する学生より、時間がかからないと意識する学生の方が

表2 予防接種に関する意識回答分布

n = 164

	全くそう思う (%)	ある程度そう思う (%)	あまりそう思わない (%)	全くそう思わない (%)
抗体検査費用が高い	99 (60.4)	54 (32.9)	11 (6.7)	0 (0.0)
予防接種費用が高い	103 (62.8)	55 (33.5)	6 (3.7)	0 (0.0)
受診に時間がかかる	33 (20.1)	40 (24.4)	84 (51.2)	7 (4.3)
副反応が心配	29 (17.7)	52 (31.7)	69 (42.1)	14 (8.5)
注射が嫌いなので受けたくない	21 (12.8)	31 (18.9)	60 (36.6)	52 (31.7)
自身の健康被害の防止になる	99 (60.4)	38 (23.2)	12 (7.3)	15 (9.1)
他者への感染予防	119 (72.6)	42 (25.6)	2 (1.2)	1 (0.6)
計画的に実施すべき	117 (71.3)	45 (27.4)	2 (1.2)	0 (0.0)
施設からの要求は妥当である	119 (72.6)	42 (25.6)	3 (1.8)	0 (0.0)
自己管理を行えば必要ない	3 (1.8)	12 (7.3)	82 (50.0)	67 (40.9)
病院以外では必要ない	4 (2.4)	23 (14.0)	83 (50.6)	54 (32.9)
施設が求めるので受ける	33 (20.1)	74 (45.1)	38 (23.2)	19 (11.6)
感染者と接触しなければ必要ない	6 (3.7)	9 (5.5)	71 (43.3)	78 (47.6)

55.5%と多かった。「副反応が心配」に関しては、全くそう思う29名(17.7%)、ある程度そう思う52名(31.7%)、あまりそう思わない69名(42.1%)、全くそう思わない14名(8.5%)となっており、「副反応の心配」をするものとししないものはほぼ同じであった。「注射が嫌いなので受けたくない」に関しては、あまりそう思わない60名(36.6%)、全くそう思わない52名(31.7%)と「注射が嫌いなので受けたくない」と思わない学生が68.3%と多かった。「自身の健康被害の防止」に関しては、全くそう思う99名(60.4%)、ある程度そう思う38名(23.2%)となっており、「自身の健康被害の防止」を意識する学生が83.6%を占めていた。「他者への感染予防」に関しては、全くそう思う119名(72.6%)、ある程度そう思う42名(25.6%)となっており、「他者への感染予防」を意識する学生が98.2%を占めていた。「計画的に実施すべき」に関しては、全くそう思う117名(71.3%)、ある程度そう思う45名(27.4%)となっており、予防接種を「計画的に実施すべき」と意識する学生が98.7%を占めていた。「施設からの要求は妥当」に関しては、全くそう思う119名(72.6%)、ある程度そう思う42名(25.6%)となっており、「施

設からの要求は妥当」とする学生が98.2%を占めていた。「自己管理を行えば必要ない」に関しては、あまりそう思わない82名(50.0%)、全くそう思わない67名(40.9%)となっており、自己管理を行っても、予防接種が必要と意識する学生が90.9%を占めていた。「施設が求めるので受ける」に関しては、全くそう思う33名(20.1%)、ある程度そう思う74名(45.1%)となっており、施設の求めで受ける学生が65.2%と多かった。「感染者と接触しなければ必要ない」に関しては、あまりそう思わない71名(43.3%)、全くそう思わない78名(47.6%)となっており、感染者との接触がなくても予防接種が必要であると意識する学生が90.9%を占めていた。(表2)

5) 入学1年間の予防接種状況

27年度生88名(44.7%)、26年度生109名(55.3%)の入学後1年間の接種者(抗体獲得者を含む)結果を集計した。麻疹接種者は、27年度生88名(100%)、26年度生106名(97.2%)であった。風疹接種者は、27年度生87名(98.9%)、26年度生96名(88.1%)であった。水痘接種者は、27年度生86名(97.7%)、26年度生108名(99.1%)であった。ムンプスは、27年度生83名(94.3%)、26年度

表3 入学後1年間での予防接種済者と未接種者

	学年	n	予防接種済者	(%)	未接種者	(%)	
麻疹	2年	88	88	(100.0)	0	(0.0)	ns
	3年	109	106	(97.2)	3	(2.8)	
風疹	2年	88	87	(98.9)	1	(1.1)	**
	3年	109	96	(88.1)	13	(11.9)	
水痘	2年	88	86	(97.7)	2	(2.3)	ns
	3年	109	108	(99.1)	1	(0.9)	
ムンプス	2年	88	83	(94.3)	5	(5.7)	ns
	3年	109	104	(95.4)	2	(1.8)	
B型肝炎	2年	88	66	(75.0)	22	(25.0)	ns
	3年	109	76	(69.7)	33	(30.3)	

カイ二乗検定

** $p < .01$

表4 学年間の平均と差の検定

	学年	n	平均値	標準偏差	
予防接種の計画	2年	79	1.06	±0.25	**
	3年	85	1.21	±0.41	
予防接種の認識	B肝認識	2年	4.91	±0.43	ns
		3年	4.93	±0.30	
	麻疹認識	2年	3.04	±1.45	ns
		3年	3.26	±1.59	
	風疹認識	2年	2.84	±1.44	*
		3年	3.38	±1.49	
	水痘認識	2年	2.39	±1.41	*
		3年	2.91	±1.51	
ムンプス認識	2年	2.73	±1.56	ns	
	3年	3.19	±1.50		
認識合計点	2年	79	15.91	±4.88	*
	3年	85	17.66	±5.22	
感染症知識得点	2年	79	7.51	±1.52	ns
	3年	85	7.58	±1.69	
予防接種に関する意識	抗体検査費用が高い	2年	1.66	±0.66	**
		3年	1.28	±0.53	
	予防接種費用が高い	2年	1.51	±0.57	*
		3年	1.32	±0.54	
	受診に時間がかかる	2年	2.57	±0.78	*
		3年	2.24	±0.90	
	副反応が心配	2年	2.44	±0.87	ns
		3年	2.39	±0.89	
	注射が嫌いなので受けたくない	2年	2.89	±0.96	ns
		3年	2.86	±1.05	
	自身の健康被害の防止になる	2年	1.73	±0.89	ns
		3年	1.58	±1.03	
	他者への感染予防	2年	1.41	±0.54	*
		3年	1.20	±0.48	
	計画的に実施すべき	2年	1.34	±0.50	ns
		3年	1.26	±0.47	
施設からの要求は妥当である	2年	1.32	±0.52	ns	
	3年	1.27	±0.47		
自己管理を行えば必要ない	2年	3.27	±0.65	ns	
	3年	3.33	±0.71		
病院以外では必要ない	2年	3.18	±0.71	ns	
	3年	3.11	±0.77		
施設が求めるので受ける	2年	2.41	±0.86	ns	
	3年	2.13	±0.95		
感染者と接触しなければ必要ない	2年	3.27	±0.75	ns	
	3年	3.42	±0.75		

平均の差の検定

** $p < .01$ * $p < .05$

生104名(95.4%)であった。B型肝炎予防接種者26年度生66名(75.0%)27年度生76名(69.7%)であった。接種状況については、27年度生の風疹・麻疹・B型肝炎の3種類について、26年度生より接種割合が高かった。26年度生と27年度生の接種の有無のカイ二乗検定を行った結果、風疹のみに有意差がみられた($p < .01$) (表3)

2. 学年間の差

1) 予防接種計画

「予防接種の計画を立てた」項目では、学年間の平均の差に有意差($p < .01$)があった。26年度生に計画立案者が多かった。

2) 予防接種状況の認識

「予防接種状況の認識」に関して、学年間の平均の差は、「風疹」と「水痘」に有意差($p < .05$)があった。「予防接種状況の認識の合計」においても、有意差($p < .05$)があり、26年度生が高かった。

3) 感染症知識得点

「感染症知識得点」は、27年度生と26年度生に

は、学年間の差に有意差は見られなかった。

4) 予防接種に関する意識

予防接種に関する意識について学年間の差は、「抗体検査の費用が高い」($p < .01$)「予防接種の費用が高い」($p < .05$)「受診に時間がかかる」($p < .05$)「他者への感染予防となる」($p < .05$)に有意差がみられた。(表4)

3. 予防接種の意識項目の相関

「抗体検査費用が高い」と「予防接種費用が高い」($r = .701, p < .01$)に強い正の相関がみられた。「注射が嫌い」と「副反応が心配」($r = .245, p < .01$)にやや正の相関がみられた。「他者の感染予防」と「自己の感染予防」($r = .533, p < .01$)にかなり正の相関がみられた。「計画的に実施すべき」は、「自己の健康被害の防止」($r = .391, p < .01$)にやや相関があり、「他者の健康被害の防止」($r = .533, p < .01$)とは、かなり相関があった。

「施設からの要求妥当」と「自己の健康被害防止」($r = .21, p < .01$)、「他者の健康被害防止」($r = .355, p < .01$)にやや相関があり、「計画的に実

表5 予防接種の意識項目の関連

n = 164

	抗体検査費用が高い	予防接種費用が高い	受診に時間がかかる	副反応が心配	注射が嫌いで受けたくない	自己の健康被害の防止	他者への感染予防	計画的に実施すべき	施設からの要求妥当	自己管理を行えば必要ない	病院以外では必要ない	施設が求めるので受ける	感染者と接触しなければ必要ない
	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r	r
抗体検査費用が高い		0.701 **	0.198 *	0.140 ns	0.012 ns	0.095 ns	0.138 ns	0.133 ns	0.091 ns	0.002 ns	0.155 *	0.23 **	0.047 ns
予防接種費用が高い	0.701 **		0.143 ns	0.061 ns	-0.003 ns	0.020 ns	0.078 ns	0.034 ns	0.065 ns	0.041 ns	0.074 ns	0.228 **	0.006 ns
時間がかかる	0.198 *	0.143 ns		0.171 *	0.051 ns	0.141 ns	0.051 ns	-0.026 ns	0.003 ns	0.069 ns	-0.005 ns	0.152 ns	-0.072 ns
副反応が心配	0.140 ns	0.061 ns	0.171 *		0.245 **	0.087 ns	0.062 ns	0.083 ns	0.141 ns	-0.075 ns	-0.17 *	-0.038 ns	-0.024 ns
注射が嫌いで受けたくない	0.012 ns	-0.003 ns	0.051 ns	0.245 **		-0.033 ns	-0.095 ns	-0.020 ns	0.036 ns	-0.022 ns	-0.038 ns	0.079 ns	0.052 ns
自己の健康被害の防止	0.095 ns	0.020 ns	0.141 ns	0.087 ns	-0.033 ns		0.533 **	0.391 **	0.21 **	-0.038 ns	-0.088 ns	-0.126 ns	-0.084 ns
他者への感染予防	0.138 ns	0.078 ns	0.051 ns	0.062 ns	-0.095 ns	0.533 **		0.533 **	0.355 **	-0.085 ns	-0.109 ns	-0.016 ns	-0.122 ns
計画的に実施すべき	0.133 ns	0.034 ns	-0.026 ns	0.083 ns	-0.020 ns	0.391 **	0.533 **		0.454 **	-0.090 ns	-0.143 ns	-0.136 ns	-0.244 **
施設からの要求妥当	0.091 ns	0.065 ns	0.003 ns	0.141 ns	0.036 ns	0.21 **	0.355 **	0.454 **		-0.231 **	-0.169 *	-0.109 ns	-0.292 **
自己管理を行えば必要ない	0.002 ns	0.041 ns	0.069 ns	-0.075 ns	-0.022 ns	-0.038 ns	-0.085 ns	-0.090 ns	-0.231 **		0.655 **	0.214 **	0.533 **
病院以外では必要ない	0.155 *	0.074 ns	-0.005 ns	-0.17 *	-0.038 ns	-0.088 ns	-0.109 ns	-0.143 ns	-0.169 *	0.655 **		0.503 **	0.533 **
施設が求めるので受ける	0.23 **	0.228 **	0.152 ns	-0.038 ns	0.079 ns	-0.126 ns	-0.016 ns	-0.136 ns	-0.109 ns	0.214 **	0.503 **		0.34 ns
感染者と接触しなければ必要ない	0.047 ns	0.006 ns	-0.072 ns	-0.024 ns	0.052 ns	-0.084 ns	-0.122 ns	-0.244 **	-0.292 **	0.533 **	0.533 **	0.34 ns	

Spearman の順位相関分析

** $p < 0.01$ * $p < 0.05$

施すべき」($r = .454, p < .01$)とは、かなり相関があった。「自己管理を行えば必要ない」と「施設からの要求妥当」($r = -.231, p < .01$)はやや負の相関があった。「病院以外では必要ない」と「自己管理を行えば必要ない」($r = .655, p < .01$)とは、かなり相関があった。「施設が求めるので受ける」と「抗体費用が高い」($r = .23, p < .01$)「予防接種費用が高い」($r = .228, p < .01$)「自己管理を行えば必要ない」($r = .214, p < .01$)とは、やや相関があった。「病院以外では必要ない」($r = .503, p < .01$)では、かなり相関があった。「感染者と接触しなければ必要ない」と「計画的に実施すべき」($r = -.244, p < .01$)「施設からの要求妥当」($r = -.292, p < .01$)にやや負の相関があった。「自己管理を行えば必要ない」($r = .533, p < .01$)「病院以外では必要ない」($r = .533, p < .01$)では、かなり相関があった。(表5)

V. 考 察

1. 予防接種の計画と予防接種状況認識と接種率

予防接種の計画を立てた学生は、27年度生・26年度生の合計では8割を占めた。学年間の差の検定では、有意差があり、26年度生の方が高かった。また、「予防接種状況の認識」では、学年間の平均の差で、「風疹」と「水痘」に有意差があった。「予防接種状況の認識の合計」も、有意差があり、26年度生が高かった。これは、26年度生が2年に渡り個別指導を繰り返し、「医師と相談し計画的に接種をする」ことを、指導してきたことによると考える。

また、27年度生に自己記入式予防接種計画書の配布と説明支援を行ったが、集団指導であったため充分でなかったことが考えられる。しかし、27年度生と26年度生の1年間の予防接種状況は、27年度生の風疹・麻疹・B型肝炎の3予防接種について、26年度生より接種割合が高く、風疹に有意差がみられたことから、定期的な予防接種推奨教育の効果があったと考えた。特に3回の接種を要するB型肝炎の予防接種に関しては、計画的に接種する必要があるため、初期の計画書立案の教育支援と定期的な予防

接種推奨教育の効果があったと考える。

2. 予防接種に関する意識の分布と関係性

主体的な感染症予防行動に影響すると考えられる予防接種に関する意識の13項目のうち「抗体検査の費用が高い」、「予防接種費用が高い」を意識する学生は、共に90%以上を占め、互いに強い相関がみられた。小口¹⁾は、「陰性者が予防接種をする率は低く、費用が高いことが一因である」と報告している。集団抗体検査で、価格を抑える工夫をしたが、複数回の予防接種の費用を考慮すると、学生にとっては費用がかかると意識していることがわかった。

「受診に時間がかかる」と意識した学生は、学年間に有意差があり、27年度生の方が有意に少なかったことから、26年度生より予防接種のための受診行動に抵抗感が改善されていると考える。

また、「計画的に実施すべき」と意識した学生は、「自己の健康被害の防止」と「他者の感染予防」と共に90%以上を占め、互いに相関のあることから、自己の健康被害の防止・他者への感染予防が、受診行動に至る動機付けとして重要であると考えられる。さらに、「他者への感染予防」の意識は、学年間に有意差があり、27年度生の方が高かった。これらは、27年度からの入学直後の保護者・学生への全体説明と、集団抗体検査の結果説明時の教育などの新たな感染症予防教育プログラムの効果であったと考える。

「施設の要求は妥当」と意識した学生は、100%近くを占め、「自己の健康被害の防止」・「他者への感染予防」と相関があると共に、「計画的に実施すべき」と強い相関があった。このことから、学生は、施設の要求は妥当であり、感染症予防のために計画的に実施すべきと考えている。

一方、「施設が求めるので受ける」と「病院以外では、必要ない」にかなり強い相関があることから、予防接種を実習施設の求めに応じて受けているが、病院以外では必要ないと考えており、病院実習に限定した意識を持っていることが考えられる。今後さらに、病院実習以外の場でも感染症予防行動の意識を定着させるような教育が必要である。

VI. 結 論

看護教育には、保健医療福祉施設などで行う臨地実習が不可欠である。1年生での初期教育によって、予防接種を感染予防のために計画的に実施するべきものであり、施設からの要求を妥当と考え、その必要性をある程度理解し、主体的な感染症予防行動に繋がることを示唆された。今後、感染症の知識のみならず、「費用」等のデメリットや「健康被害の予防」といったメリットを提示し、学生の動機づけ、意思決定を促す手法を導入するなど病院実習以外の場でも主体的な感染症予防行動に繋がる教育の必要性がある。

<文 献>

- 1) 小口多美子：看護学生の小児特有ウイルス感染症予防対策に関する研究，国際医療福祉大学紀要，10（3）p27-32，2005.
- 2) 玉井なおみ，大川嶺子，嘉手苺栄子：看護学生における感染症対策の課題－本学学生の感染予防意識調査か

ら－，沖縄県立看護大学紀要，9号，p61-66，2008.

- 3) 池西静江：看護学校における学生の健康管理と臨地実習での感染症対策について，日本看護学校協議会共済会，VoL15，p1-4，2014.

- 4) 福田和美，松尾ひとみ，小森直美ら：看護系大学における学生，教員の抗体価検査・予防接種に関する文献の動向と今後の課題，福岡県立大学看護学研究紀要，4（2），88-97，2007.

- 5) 小林淳子，山崎登志子，萩原晴美，小林光樹，石田真知子，小山田信子，板垣恵子，杉山敏子，柏倉栄子，菊地史子，大槻美恵子，斎藤ひろみ：B型肝炎予防接種に対する看護学生の態度，東北大医短部紀要，6（2），113-120，1997.

- 6) 中村伸枝，岡田忍，石垣和子：看護学部における感染症対策，千葉大学看護学部紀要，28259-63，2006.

- 7) 山本法子，安岡砂織，出野慶子，宮城真樹，近藤陽子，荒井一步：看護大学学生の麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価の推移，東邦看護学会誌，11，15-19，2014

- 8) 村上弘之：看護学生における臨地実習上必要な感染症予防対策，上武大学看護学部紀要，2，1-14，2007

- 9) 岩下祐子：インフルエンザ菌b型（Hib）予防接種の接種石に影響を与える要因，J.Natl.Inst.Public Health，58（3），2009

抄 録

目的：A大学看護学部では、平成27年度生と平成26年度生の感染症予防行動の実態を明らかにし、感染症予防の初期教育について検討することを目的とする。

方法：平成27年度生109名と平成26年度生88名に、無記名自記式質問紙調査と、入学から1年間の予防接種状況の分析を行った。調査内容は、属性、生活環境、予防接種状況の認識、感染症の知識（A大学看護学部で作成した感染症ファイルに基づき知識を問う10項目）、予防接種の意識（予防接種の意識に関する13項目4件法）であった。分析は、欠損のない164名のデータを用いた。

結果：入学1年間の予防接種状況は、平成27年度生の風疹・麻疹・B型肝炎の3種類について、平成26年度生より接種割合が高かった。「抗体検査費用が高い」と「予防接種費用が高い」($r=.701$, $p<.01$)に強い正の相関がみられた。「計画的に実施すべき」は、「自己の健康被害の防止」($r=.391$, $p<.01$)にやや相関があり、「他者の健康被害の防止」($r=.533$, $p<.01$)とは、強い相関があった。「計画的に受診すべき」と意識した学生は、「自己の健康被害の防止」と「他者の感染予防」と共に90%以上を占め、互いに相関のあることから、自己の健康被害の防止・他者への感染予防が、受診行動に至る動機付けとして重要であると考え、また、施設からの要求を妥当と考え、その必要性をある程度理解し、主体的な感染症予防行動に繋がること示唆された。

キーワード：感染症予防行動、初期教育、予防接種